

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム学際研究賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「I Hear My Voice; Therefore I Spoke: The Sense of Agency Over Speech Is Enhanced by Hearing One's Own Voice」

(SAGE Publications Inc., Psychological Science, 2022 年 8 月)

大畑 龍 東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室 特任研究員
浅井 智久 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所
認知機構研究所 認知神経科学研究室 主任研究員
今泉 修 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 准教授
今水 寛 東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室 教授

本論文では、行為を行うもの（例えば話者）に対するフィードバックの影響による行為主体感の変化を実験的に解明した。行為主体感を高められるとより積極的な会話等になるという注目すべき結果を得ている。このことは人間が制御する将来のロボット等ではなく、メタバースの時代にはいかに積極的に仮想空間で活動し仮想社会を活性化することへ繋がると考えられるユニークな研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「研究利用可能な小論文データに基づく参照文書を利用した小論文採点手法の開発」

(情報処理学会, 情報処理学会論文誌, 2021 年 9 月)

竹内 孔一 岡山大学学術研究院自然科学学域 准教授
大野 雅幸 住友電気情報システム株式会社 テクニカル・コンサルタント
泉仁 宏太 株式会社 NTT データ MSE 社員
田口 雅弘 岡山大学学術研究院社会文化科学学域 教授
稲田 佳彦 岡山大学学術研究院教育学域 教授
飯塚 誠也 岡山大学全学教育・学生支援機構 教授
阿保 達彦 岡山大学学術研究院自然科学学域 教授
上田 均 岡山大学学術研究院自然科学学域 教授

本論文は、小論文の採点という教育現場において大変重要かつ負担の大きい課題について、現実的な自動採点手法を実装している点が高く評価できる。特に人文学、経済、科学をテーマに関して 4,800 件の答案データを構築し公開している点、それらを用いた評価実験の結果、手法の面でも先行研究を上回る高い性能を実現していることが評価できる。この分野の今後の発展の道を切り開いた作品であることから、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。



入賞（賞金 100 万円）

「Kiite Cafe: A Web Service for Getting Together Virtually to Listen to Music」

(22nd International Society for Music Information Retrieval Conference (ISMIR 2021),
2021 年 11 月)

佃 洸撰 国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員
石田 啓介 国立研究開発法人産業技術総合研究所 テクニカルスタッフ
濱崎 雅弘 国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究グループ長
後藤 真孝 国立研究開発法人産業技術総合研究所 首席研究員

COVID-19 以降、例えば友人と一緒に音声を聞きながら時間と空間を共有することは減った。本研究で実現された“Kiite Cafe”は Web 上で集まって、同じ曲を聴きながらコミュニケーションをするものである。5 か月以上の実験的研究の後に実用にも供し、その有効性は広く決められ、いわば「文化」として根付いた。これは単なる学術研究で終わらず、社会実装を通して新しい文化サービスをクリエーションした実学として素晴らしい研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「AI 技術と集団的労働法上の課題

—集団的利益調整の位置付けと不当労働行為制度の解釈に着目して—

(労働開発研究会, 季刊労働法 275 号, 2021 年 12 月)

岡村 優希 株式会社情報通信総合研究所 主任研究員／同志社大学 研究員

本論文は、経営者による雇用管理が AI による雇用管理によって代替される場合の労働法上の位置づけに関し、個別労働法ならびに集団的労働法の双方において、労働者性の成否（非雇用化）、不当労働行為の成否（不利益取扱いの意思の存否）などについて、機械学習と深層学習に分け、位置づけている論文である。人的組織が情報システムを介した場合の法的問題を鋭く解析しており、学際論文としてのオリジナリティがある。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Confidence modulates the decodability of scene prediction during partially-observable maze exploration in humans」

(Nature Portfolio, Communications Biology, 2022 年 4 月)

片山 梨沙 京都大学大学院情報学研究科 博士後期課程 1 年
吉田 和子 オックスフォード大学 Nuffield 医療神経科学部 研究員
石井 信 京都大学大学院情報学研究科 教授

本論文は、3 次元空間における迷路探索課題をバーチャルリアリティゲームとして実装し、迷路内を移動中に脳内に構築されるシーン予測とその主観的確信度の両方が脳活動パターンから解読可能であることを示している。予測の確信度が高いほど、その予測を表現する脳活動がより明瞭になるという知見を見出した点を高く評価する。将来的にはブレイン・マシン・インターフェースを用いた情報通信技術への応用が期待される。

特例表彰（賞金 75 万円）

「特集「インフォデミック時代の AI とサイバーセキュリティ」

（映像情報メディア学会，映像情報メディア学会誌，2022 年 7 月）

越前 功	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 教授
馬場口 登	大阪大学 データビリティフロンティア機構 特任教授 福井工業大学 教授
笹原 和俊	東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授
中島 悠太	大阪大学 データビリティフロンティア機構 准教授
Trung-Nghia Le	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 特任助教
Huy Hong Nguyen	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 特任研究員
山岸 順一	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授
Canasai Kruengkrai	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 特任助教
李 良知	大阪大学 データビリティフロンティア機構 特任助教
王 博文	大阪大学 博士後期課程 3 年
宮崎 邦洋	東京大学 博士後期課程 3 年
小林 正啓	大阪弁護士会 弁護士

本作は、シンセティック・メディアの負の側面の問題について、技術的観点からの検討のみならず、社会学的観点ならびに法整備の現状をもカバーしており、「インフォデミック」を概観するにふさわしく、時宜を得た学際論文集である。学会誌の特集記事である点は審査員で評価が分かれたところであるが、フェイクメディアをいかに克服するか、という研究成果としての価値は高く特例表彰とした。